

p9・図③

腕の絵がありますが、本来この腕はワンタッチ式駆血帯の場所にあるべきものです。

p9・TERUMOの注射針の色

——薬事法改正により、平成19年からカラーコードがISO/JIS規格に沿って統一されました。それに合わせて以下のように改訂になってます。

- 27 グレー (medium grey)
- 6 (ベージュ)茶 (brown)
- 25 (青)オレンジ (orange)
- 24 (赤)薄紫 (medium purple)
- 23 水色 (deep blue)
- 22 黒 (black)
- 21 緑 (deep green)
- 20 黄 (yellow)
- 19 (茶)クリーム (cream)
- 18 ピンク (pink)

p11・「いよいよ刺すぜ」図①

——「その人の「効き腕ではない方」で」→「利き腕」

p14・「[1]血管に逃げられた！！」

——「針に追われて」→「押されて」

p19・図⑤⑥

クレンメが閉じているべきなのに、この絵だと開いているように見えます。申し訳ありません。

p20・図⑩ポイント2

「手背は結構よく使うけど少し邪魔(特に効き手だと最悪)」  
——「効き手」でなく「利き手」

p21・ポイント4

「その上流の(2)や(3)から再チャレンジ」  
——静脈の流れを考えると、これは「上流」でなく「下流」ですね。でもわかりにくいので、「その上でやる」と考えるといいと思います。

p21・ポイント4「くるぶし(外頼)の背側に」

——ここで言う「手のくるぶし」とは、橈骨の茎状突起のことです。まあでも基本的に「くるぶし」と言ったら、足のくるぶしのことですね。だからこの表現は不適切ですな。

p21・「～翼状針の場合～」の右の絵

「ここに⑩で作ったラインをつないで」  
——⑩→①

p22・図⑯

「針の侵入部に」→「刺入部」ということのほうが多いですね。ふがふが。

p23・留置針によく使う太さ(色はやっぱりTerumo(R))

——これも注射針(p.9)同様、大々的に変更されています。

- 16 灰色
- 18 深緑
- 20 ピンク
- 22 濃紺
- 24 紫

p24・図⑯

「15度くらいねかすせて」→「ねかせて」

p25・図⑳

「点滴ライン⑩をしっかりとめます」  
——p21同様、⑩じゃなくて①です。

p32・図㉔

「子指側を」→「小指側を」

p32・「ココも穴場です」

——「外頼」について、p21同様です。

p33・図㉑

「少しずつスピードを早めて」→「速めて」。  
「早」= early, 「速」= fast でしたね、ムツカシ。

p34・「第2位:筋肉注射」

「静脈ほど『速効で速切れる』んじゃなく」→「即効」

p34・注射針の列記

これまたカラーコード統一に対応するなら、「青」→「オレンジ」、  
「うすクリーム」→「茶」になります。

p43・図④セリフ

「直下にあるはずの」動脈、です。うしろのカギ括弧が抜けてます。

p44・図⑭

「血ガス大なし」→「台なし」

p45

「リキャブ絶対禁止が一番」の「番」の字が一部欠けています。

p48

おまけのあとに謎の○があります。何がしたかったのか自分でもよくわかりません。

p49・「[2]ラインとりながら採血もしちゃうテク」

「点滴の回p25⑩を見ましょう」  
——点滴のとくと違い、⑩の「駆血帯を外す」という手順を踏まずに、左手で押さえながら内筒を抜かなければなりません。

p50・「慣れてくると……」

——大幅改訂です。ページの下半分を、以下と差し替えてください。

左手のひらへんを  
使って  
おさえる

こちらの指で  
留置針外筒  
をささえる

(1)

ここに⑩で  
作ったライン  
をつないで

(2)

慣れてくると……  
右手で刺した留置針の  
外筒が入った状態を  
→ 左手で外筒の先っぽがあるはずの  
トコロをおさえつつ  
留置針外筒をつかん固定

(3)

→ (1) 右手で「内筒の針」を抜く  
→ 「針」を専用「コ」箱に捨てる  
→ (2) 「シリンジ」を手に取る  
→ (3) 「シリンジ」を「針」につく  
→ 「シリンジ」を「針」に合わせる  
という「手順」を「正確」に「行う」  
(「手順」を「正確」に「行う」は「いい」)

p53

当時日本で作ってるところなし →前文と被ってるので削除

p54

「嗚呼此ぞ現実。」  
——「嗚」→「喘」(くちへんにカラス)

P56

中央  
「末梢じゃない静脈～」の「梢」が、てへんになってます。てへ。  
左下の図  
「右効きなら」→「右利きなら」

p58・右下隅の図

「中を見てから足りないものは隨時つけ足しましょう」→「隨時」

p65

「すべて平してから譲るのはサイアクです」  
——「譲」の「なべぶた」の所が微妙に間違ってます。

p66～76

「圧トランスデューサー」→「圧トランスデュ(ー)サー」  
※「圧トランスデューサー」と描いているところが散在しておりますが、正確にはtransducer「トランスデューサー」です。末尾を伸ばすか伸ばさないかは理系人間のこだわりというか、ただの趣味なので、どちらでもいいです。

p69・図⑭

「効き手の逆にしましょう」→「利き手」

p72・図(30)

「⑭で作っておいた圧ラインをつなぎます」  
——「⑭」→「⑩」

p74・「※なっていない時・実は動脈じゃないトコロに入ってる」

——「同じくらい出現はず(100mgHgとか)」→「100mmHg」

p75・「よくある失敗」

「上流がないなら右手を狙いましょう」  
——これは患者さんが右利きで、初めに左手を穿刺した、という仮定のもとでの話ですね。「反対の手」のほうが正確かも。

p78

「Kochenmark(コッヒエンマルク)」  
——「Kochen」→「Knochen(クノッヒエン)」Kochenは料理(英語のcook)です。

p79・[7]

「摂子いっこ」→「鑑子」

p83・図(22)

「末梢血」の「梢」が、てへんになってます。てへ。

p83

(22)が2つあります。訂正して番号がずれると、「(25)シリンジの本数だけ(22)から(24)をくり返します」は「(26)シリンジの本数だけ(22)から(25)をくり返します」に変わります。

p88・腰椎穿刺・導入

「ルンバル(英訳: Lumbar punctureから)」  
——正確にはドイツ語(Lumbalpunktion, ルンバルプンクツイオン)由来です。失礼しました。

p88・「腰椎穿刺」前文2行目「英訳: Lumbar panctureから」

——「pancture」→「puncture」

p88・図[1]「TERUMO(R)なら9ページと同じ色のルールだよ」

——カラーコードは統一の方向なのですが、2007年12月現在スパイナル針は未対応のよう。よって今のところ、22G黒、23Gは水色。おそろくそのうち変わりますので、現場の針の色をよく見てみてください。

p93・図㉔「黄色い」→「も膜下出血」

——「出」の左上に変な線がついてます。

p97・参考文献

「図レイテッド」(2箇所)→「図レイテッド」  
「日本救急学会」→「日本救急医学会」  
「昭林社」→「照林社」

tp9・TERUMOの注射針の色

——薬事法改正により、平成19年からカラーコードがISO/JIS規格に沿って統一されました。それに合わせて以下のように改訂になっております。

- 27 グレー (medium grey)
- 6 (ベージュ)茶 (brown)
- 25 (青)オレンジ (orange)
- 24 (赤)薄紫 (medium purple)
- 23 水色 (deep blue)
- 22 黒 (black)
- 21 緑 (deep green)
- 20 黄 (yellow)
- 19 (茶)クリーム (cream)
- 18 ピンク (pink)

p14・「[1]血管に逃げられた！！」

「針に追われて」→「押されて」

p15・コラムN本文6行目「血管や内臓を制御するための」

——「内臓」→「内臓」

p21・ポイント4「その上流の(2)や(3)から再チャレンジ」

——静脈の流れを考えると、これは「上流」でなく「下流」ですね。でもわかりにくいので、「その上でやる」と考えるといいと思います。

p21・ポイント4「くるぶし(外頼)の背側に」

——ここで言う「手のくるぶし」とは、橈骨の茎状突起のことです。まあでも基本的に「くるぶし」と言ったら、足のくるぶしのことですね。だからこの表現は不適切ですな。

p21・「～翼状針の場合～」の右の絵「ここに⑩で作ったラインをつないで」

——⑩→①

p22・図⑯

「針の侵入部に」→「刺入部」ということのほうが多いですね。ふがふが。

p23・留置針によく使う太さ(色はやっぱりTerumo(R))

——これも注射針(p.9)同様、大々的に変更されています。

- 16 灰色
- 18 深緑
- 20 ピンク
- 22 濃紺
- 24 紫

p25・図⑯「点滴ライン⑩をしっかりとめます」

——p21同様、⑩じゃなくて①です。

p32・図㉔「子指側を」→「小指側を」

p32・「ココも穴場です」

——「外頼」について、p21同様です。

p33・図⑩「少しずつスピードを早めて」→「速めて」。

「早」= early, 「速」= fast でしたね、ムツカシ。

p34・「第2位:筋肉注射」

「静脈ほど『速効で速切れる』んじゃなく」→「即効」

p34・注射針の列記

——これまたカラーコード統一に対応するなら、「青」→「オレンジ」、「うすクリーム」→「茶」になります。

p38「最も遅い第4位:皮下注射 略して「皮内」」

——「皮下注射」→「皮内注射」

p46・「Pa02:血中の酸素濃度」「PaCO2:血中の二酸化炭素濃度」

——正確には「動脈血中の」です。記号も「Pa(pressure/arterial)」ですし。

p46・「最近は何や…」

——「PH」→「pH」



p49・「[2]ラインとりながら採血もしちゃうテク」  
「点滴の回p25㊹を見ましょう」  
→点滴のときと違い、㊹の「駆血帯を外す」という手順を踏まずに、左手で押さえながら内筒を抜かなければなりません。

p50・「慣れてくると……」  
——大幅改訂です。第一版を参照してください。

p53 「圧力差でスピッツ内の血液(B)が(A)へ流送しています」  
——「流送」→「逆流」

p68・図④「圧トランスデューサーのクレンメを閉じて」  
→「耐圧ラインのクレンメを閉じて」

p66～76  
「圧トランスデューサー」→「圧トランスデューサー」  
※「圧トランスデューサー」と描いているところが散在しておりますが、正確にはtransducer「トランスデューサー」です。末尾を伸ばさずか伸ばさないかは理系人間のこだわりというか、ただの趣味なので、どちらでもいいです。

p69・図⑩「効き手の逆にしましょう」→「利き手」

p72・図(30)「㊹で作っておいた圧ラインをつなぎます」  
——「㊹」→「㊸」

p74・「※なってない時・実は動脈じゃないトコロに入ってる」  
——「同じくらい出てるはず(100mgHgとか)」→「100mmHg」

p75・「よくある失敗」  
「上流がないなら右手を狙いましょう」  
——これは患者さんが右利きで、初めに左手を穿刺した、という仮定のもとでの話ですね。「反対の手」のほうが正確かも。

p79・「7」 「摺子」→「鑷子」

p83・図(26)  
「シリンジの本数だけ(22)～(24)をくり返します」→「(22)～(25)」

p88・腰椎穿刺・導入「ルンパール(英訳: Lumbar punctureから)」  
→正確にはドイツ語(Lumbalpunktion, ルンパールプンクツィオン)由来です。失礼しました。

p88・図1「ITERUMO(R)なら9ページと同じ色のルールだよ」  
——カラーコードは統一の方向なのですが、2007年12月現在スパイナル針は未対応のよう。よって今のところ、22G黒、23Gは水色。おそらくそのうち変わりますので、現場の針の色をよく見てみてください。

p89・ルンパールのルール・ねじ子の台詞  
「脊椎は上から頸椎(C)・胸椎(T)・腰椎(L)の3つに分けられるのだ。」  
——胸椎の記号は「Th」が正式です。  
——仙椎(S)も椎骨に含まれます。

p97・奥付「Ziggy Stardust Motion Picture DVD」  
→「Ziggy Stardust The Motion Picture DVD」  
——(原題には「The」が入ります。ポパイ様ごめんさい。t

## Kudamono 1st テイセイ

平成医療手技図譜 管モノ編 第一版

p5・「気道、食道、消化管、尿道、直腸肛門など」  
——通常、食道や直腸・肛門を含めた総称として「消化管」という語を用いる(これに肝胆膵などを合わせて「消化器」)ので、ちょっと語弊がありますね。

p8・「□→咽頭→(気道:空気)声帯→気管→気管支→肺」  
——気道の構成要素としては、咽頭に続いて、「喉頭」を入れておいた方が良かったなと思いました。

p11・「下顎が上げられてない」→「顎」の字の2本の横棒が重なって1本に見えます。

p12・「ここにチューブの太さを書いてある。(単位はFr)」  
——「単位はFr」→「単位はmm」

p13・「挿管7つ道具」  
——7つ道具が8つありますが、あえて直しません。

・「7才以下での小児はカフの圧迫で」  
——「7才以下の」と「小児は」の間に「で」が入っていますので抜いてください。

p17・「喉」という時を「口候」と描いているところがあります。すみません。棒が一本多い。

p19・「備えあれば いなし」→「憂」が抜けています。

p22・「ランゲルチューブ」  
——p12では「ランジアルチューブ」という表記でしたね、すみません。どっちでもかまいません。

p28・「体温系の水銀」→「体温計」

p45・「日本の伝統的あそび」→「日本の伝統的遊び」ですね。なんじゃこのミスは。阿呆か。

p54・二番目の図の所に、図の番号[1]を入れ忘れしました。次頁に[2][3][4]があるのに。

・「一方行并付きのプラグ」  
——「一方行」→「一方向」

p64・「このとき中のモノがただもれする」→「だだもれ」じゃん。

p66・「低圧で持続吸引する」→「持続吸引」

p68・「腹腔ドレーン」イントロダクション5行目  
「子宮外妊娠や腹腔動脈瘤破裂や……」  
——腹腔動脈瘤ではなく、「腹部大動脈瘤破裂」です。

p76・「ハートは余裕が必要なのよ」  
——「裕」の「ころもへん」が「しめずへん」になっています。

p80・「緊急開胸手術して」  
——「開胸」と「手術」との間に「小」のような文字が入っています。抜いてください。

p83・「よくある小手術セット」  
「円刃刀(えんじんそう)」  
——「えんじんそう」→「えんじんとう」

「鑷子 よーするにピンセットみたいなもの・別名 鉤ピン」  
——「Pincoet」の訳語が「鑷子」で、「みたいなもの」というよりは「イコール」ですね。

「筋鉤『鉤』とは金属性の曲がったものの・『筋鉤』なら……」  
——「曲がったものの」→「曲がったものごと」  
——「金属性」→「金属製」

p84・「下から首をさわっていってながら」→「さわりながら」

p86・「どこまでも首を掘り進めていく」  
——「掘」→「掘」動詞のときは「てへん」が一般的なんだって。てへ。

p92・「脊髄神経がフカフカ浮いている」・図「脊髄神経」(2箇所)

p93・図「脊髄神経」(2箇所)  
——「脊髄神経」ではなく、「脊髄」そのものです。 「脊髄神経」というのは、医学においてはもっと広い概念になってしまう(「脊髄」から分岐する末梢神経[全部])ので、この使い方は間違っていました。すみません。

p85・「(6)皮膚を切るメスは円刃刃」  
——「円刃刃」→「円刃刀」

p97・「黄韧带を超えて」→「越えて」

p105・「Promedica 南山堂 医学大事典」  
——「大事典」→「大辞典」

・「Special Tkanks」  
——「Tkanks」→「Thanks」

p106・「全国の変態紳士淑女君江」

——「淑」の真ん中は「止」+「小」ではなく「上」+「小」です。

## QQ-Qmei 1st テイセイ

平成医療手技図譜 救急救命編 第一版

まず大きな訂正！！！

p73(1箇所)・p90(2箇所)・p96(3箇所)・p97(3箇所)・p98(4箇所)  
——「徐細動」→「除細動」  
除細動って今回一番重要なのに漢字間違うなよ！ばか！！ばか！

p3・「西館4階 企業ブース」  
——「業」の横棒が一画多いです。

p9・図⑥・ねじ子のセリフ 「p へGo!!」  
——心電図の参照ページが抜けています。「p95」です。

p10・上部の網掛け部  
——成人の頻脈が「200以上」というのはおかしい。100以上ですね。

p16・「Korotkov」／「Korotkoff」  
——どちらでもよいですが、混在しています。すみません。

p20・「JCS 1-2点 時、場所、他人がわからない」  
——「他人」→「他人」

p26・モニターの図⑨「endtidal carbon dioxide」  
——「dioxicide」→「dioxide」

p32・上部・ねじ子のセリフ  
「除々に下がるぶんには人間適応できるんですね」  
——「除々に」→「徐々に」

p44・「紙のルール」・ねじ子のセリフ  
「デフォルトの設定ならこう決まっています(10mm = 1mV, 25mm/mm)」  
——「25mm/mm」→「25mm/s」

p44・中ほど  
「F2ボタンを押して( 参照)」  
——参照先が抜けてるじゃん。「p40」

p47・行目「罪に問われません」・「民法第698条(緊急事務管理)より」  
——前者は刑事、後者は民事の話なので、「より」と書くのはちょっと不適切だったかも。「責任も問われません」です。

3行目  
——「緊」の「臣」と「又」との間に余計な縦棒があります。

p47・p60・p66  
——「憶せず」→「臆せず」

p51・ねじ子のセリフ・下から2行目「旅行先の救急急車の呼び方は」  
——「々」が余計だ。

p53・2行目「人口呼吸について次の章からやっていきます」  
——「人口呼吸」→「人工呼吸」

p61・図③「もう片方の手を重ぬか指の間に通してにぎる」  
——「重ぬか」→「重ね」

p63・図⑩「※2人でやってるなら嗅気係の人に合いの手を入れよう」  
——「嗅気係」→「換気係」;ちなみにすぐ下の㊹では「呼吸係」となっていますけど、みんな同じことです。

p68・図⑦「毛布で集団から隠してあげましょう」  
——「集団」→「周囲」

p70・図⑧の右下「点滴する」  
——「滅」の「火」の上の横棒がありません。

p72・ねじ子世直し案「㊹@消化器の使い方」  
——「化」→「火」 ばか？

p75・バンドきゅんのセリフ「待にあわないじゃん！！」  
——「待」→「間」

p76・下部「窒息のサイン(chocking sign)をしましょう。万国共通です。」  
——「chocking」→「choking」;「c」が余計です。

p80・中ほど・「歳末満の乳児」  
「肋骨よりもはみ出てしまみぞおちのあたりに」  
——「はみ出ていま」→「はみ出ています。」

p85・最下行「実際シミュレーションしたところあるかないかで全然違うよ。」  
——「シミュレーション」→「シミュレーション」(simulation)

p86・右上のフキダシ  
「病院においてはそれを『スタッドコール』と呼ぶトコロが多いです」  
——「スタッド」→「スタット」(stat)  
あ、ちなみに「コードブルー」と呼ぶ病院もあるよ！

p88・3行目「高度なで確実な気道確保」  
——「な」が余計です。

p90・(2)「心静止(asystole よく口で『エイストール』という)」  
——「口で」というのは、「現場用語で、口頭で」という意味です。なんかわかりづらくてすみません。

p91・右下の図「本来ならば関接は避けて」  
——「接」→「節」

p93・「心停止の原因4H4T」  
「Tention pneumothorax(緊張性気胸)」  
——「Tention」→「Tension」  
「Thrombosis」  
——「h」が「n」に見えます。 「h」だよ。

p93・中ほど・「クスリ」 「心静止／除脈のPEAのとき」  
——「除」→「徐」

p95・中ほど右・[例]「軍書が臨時で市指令を出す係になる」  
——「市」が余計です。書きまちがいを消し忘れたの、丸出しですね。ふがふが。

p95・最下行「頻脈の心臓にムチ打つ行為」  
——「頻」→「瀕」

p96・除細動器の図「アラーム入/切」  
——「切」が「画足りません。」

p100・右下の図  
——吹き出しが枠と重なって読みにくいです。「でも使い捨てなので高いです」と描いてあります。

p103  
「西館1F 東からのエスカーレーターおりてすぐ」  
——「エスカーレーター」→「エスカーター」  
「西館4F 広場から昇るエレベータースカーレーター」  
——「エレベータースカーレーター」→「エスカーター」

p105・参考文献  
「ECC(救急心疾患治療)ハンドブック2005」  
——「心疾患」→「心血管」

「『図解剖学事典』山田英知」  
——「知」→「智」  
「『エキスパートナースムック 20』松村準」  
——「松村」→「村松」  
「『南山堂 医学大事典』」  
——「事」→「辞」  
「『当直医マニュアル』」  
——著者名「池田美佳・他」

p105・奥付  
「Special Tkanks」  
——「Tkanks」→「Thanks」



こんな新書をソフトバンクパブリッシングさんから出しました。数学、しかも微分積分の本です。文章はメダカカレッジさんが書いております。ねじ子はマンガ担当。100P以上もマンガ描いたYO!頑張ったYO! 数学大好きな人も苦手な人も、教科書とはひと味違う微積分の再入門を楽しんでください。本屋さんでは是非見てね！

